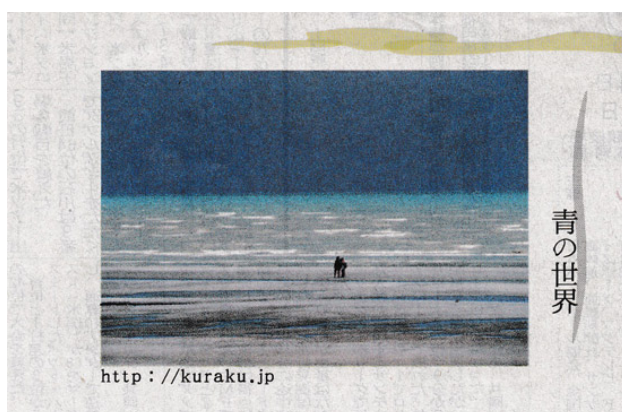


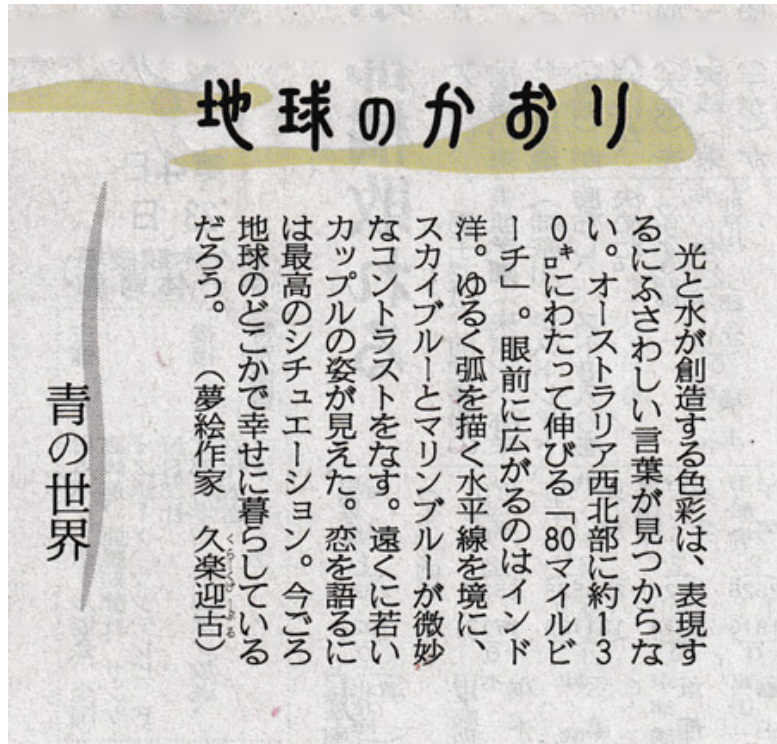
## 迎古夢旅 4540 : 海の色・湖の色① インド洋 216

世界の地の果てをめざして、ひとり旅をしていると、思わぬ色彩の海との出会いがある。

積丹半島の海の色をご紹介して、ふと思いついた

西オーストラリアから見たインド洋、新しくご覧いただいている人もあり、  
産経新聞に掲載された「地球のかおり・青の世界」を割り込み、ご紹介させて頂きました。





## 地球のかおり 「青の世界」：状況と心模様

南半球、オーストラリアの大自然。この大陸の魅力は懐<sup>ふところ</sup>の深さ。  
オーストラリア大陸、西南部に位置するパースが、今回の旅の出発地。まず、北上を開始。  
片道約 900km、西北端にあるエクスマウスをめざした。

赤道に近いノーザンテリトリー準州は、蒸し暑く高温多湿地帯。  
そこから、北北東に進路をとり、オーストラリア中央部の最北端のダーウィンへ。

地上移動、往復 6.000km のひとり旅。

日本の最南端から最北端までを往復したようなもの。

北半球を出発したのは 11 月。12 月後半に無事帰国。その途上での遭遇。

山も湖もほとんどない。実に大味。実に広大ではあるが、  
見るものに変化が少ない、のが不満。しかし、私の好奇心をくすぐる対象が一杯ある。  
先入観なしで、視点を変えると実に面白い。延々と地平線までつづく一本道。  
少し内陸に入ると、赤茶けた地道は、砂地のようすべる。

行き交う人は全くない。行き交うのは、ガソリン車や業務トラック。  
それすら珍しい。この広大な大陸にいるという貴重な事実。広大さに度肝を抜かれた。  
大自然を前にしていかに人間が無力か、小さな存在かを自覚さされる。

十分なエネルギーを持っているつもりだが追いつかない気配。頭の中と体感とは、全く違う。

この旅は自分を鍛える、修行のような旅になりそうだ。

同時に意外な自己発見が出来るかも知れない。常に人生に対してプラス思考。

**函館から京都まで、九州・鹿児島から京都まで、中山道 69 次、京都から東京・日本橋、  
帰路は東海道 53 次京都まで。いずれもママチャリ自転車。  
普通とは？ グローバル、世界と交流、着眼と視点、一工夫も二工夫も…**

北北東に進路をとった時から、熱帯性気候帯。すでに真っ黒に日焼けしている。

顔色や肌色が元に戻るだろうか、シミにならないかは後日談。

日焼け薬の効果があったのか、ヒリヒリ感は和らぎ、しかし、慣れるまでが大変だった。

一難去ってまた一難。水の問題や給油箇所の距離が想定外。

閉店時間も早いときている。街灯など全くない。夜道に何が出現するかわからない。

アウトバックの地道走行は、砂地を走るようで、止まると問題が発生。

反面、カンガルーなどの動物との遭遇は楽しい。

飛行機で移動する旅では、決して味わえない体験。カンガルーは、日没近くに出現。

宿も決めていない。街の灯りちらちらとはいかない。街灯など勿論ない。

まさに闇。先人が月や星を頼りにしたのが実感できる。

夜道に日が暮れないが、道に迷うと戻れないのではないか。このエリアで、

行方不明者が多いのも納得。

天候や気温も違う。急変もする。まさに未体験ゾーン。

どうしてもダーウインへ行く用事もない。しかし、変なこだわりが頭をもたげる。

厳しくとも引き返す選択肢はない。一度決めたら初志貫徹。

この制約下で、いかに旅を楽しく続けるか。旅と人生、共通点がある。

日本の四季や色彩がなんと素晴らしいものか。心まで豊かにしてくれる。なごませてくれる。

当たり前と見過ごし、意識していなかったことを再認識。

澄んだ水、澄んだ空気、水と木と緑の国、日本。山には樹木がいっぱい、

水がろ過される。何よりも色が多彩。

石灰石が解けたエメラルドグリーンやコバルトブルー。ノーザンテリトリーに来て、

日本と比較するには無理がある。日本の素晴らしさを再認識した次第。

### 山はみどり、野に花、人にはころ

素敵なものがないわけではない。楽しいのは、広々とした空や海、  
赤道も近く、雲も実に面白い。ブルーとホワイト、大好きな色である。そして、  
思わぬ色彩が加わってくるかもしれない。

それは「光」 光は、色を創る芸術家。水は赤色を吸収し、青色を反射し。際立たせる。

刻々と変化する夜明けや夕暮れ、その微妙な光の変化は、私の関心の的。

やわらかい光、かたい光。

心の余裕も大きな要素。あまりこだわらず、気持ちを空にする。

成果など考える必要はない。心楽しいことをやる。

物事に気づくのは、知識でなく、感性。見えないものが見られるかもしれない。

そんなリラックスした心境で、この旅を覚悟した。

希望を持つと失望が待っている。期待して期待しない。なかなか難しいが、

そんな思いで、旅を続けている。実に贅沢な話である。

明日の土曜日は、8月。月日の経つのが早いと実感。

海の色彩・スカンジナビア半島「金色の海」と

湖水の色彩、カナダ「エメラルドグリーン」をご紹介予定。